

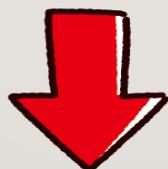
アドルフ・アルトフ
マリア夫妻

遠藤幹也

1. アドルフ・アルトフ夫妻



- A) アルトフ一家は17世紀から、サーカス団を**経営**
- B) 1913年、アドルフはサーカスの公演中、馬車の中で誕生
- C) 1939年、自分のサーカスを設立後、戦時中も各地で公演



その後すぐに同じサーカスの家系のマリアと結婚

2. アドルフ・アルトフとイレーネ・ダナー

A) 1941年の夏、ダルムシュタット近郊でサーカスを公演

イレーネ・ダナーが公演を観覧→彼女はユダヤ人

理由：父は非ユダヤ人(軍人)だが母がユダヤ人

：人種法により、ユダヤ人と認定

ダルムシュタット地図



2. アドルフ・アルトフとイレーネ・ダナー

B) 迫害の対象

ア) **1938**年、「水晶の夜」に学校を完全追放

イ) バイオリンの練習を中止

ウ) バレエ学校への夢を断念



3. イレーネ・ダナーのサーカス参加

A) イレーネがアドルフサーカスに入団

→ドイツ文化省からの厳しい管理の中、偽名で参加

：ピーターとの間に二人の子供

→人種法により未婚



4.ホロコーストの最終局面

A) 1942年3月20日、最初の強制送付：ポーランドのルブリン
→イレーネ一家の家は没収→ピーターはアドルフに懇願

B) アドルフの判断

ア) 彼らを隠匿 = 人としての良心

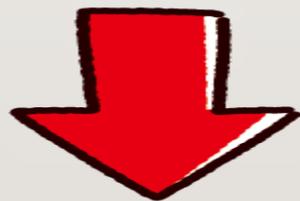
イ) 救助の停止 = ナチスドイツと同じ殺人者



4.ホロコーストの最終局面

C) アドルフ夫妻は彼らを隠匿

→イレーネの父が戦地から帰還→ユダヤ人の妻と離婚命令



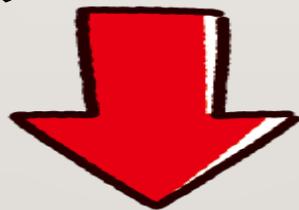
命令に反逆、一家の秘密の生活に参加

5. リスクの高い行為

A) アドルフ夫妻は戦時中に多くのユダヤ人を隠匿

→ リスクが高い → ア) ゲシュタポによる検閲

イ) サーカス団員による内部告発



実際に脅威が発生

5. リスクの高い仕事

→ アドルフがゲシュタポに酒を提供

理由：酒の強要で時間稼ぎ

結果：ユダヤ人たちの逃走時間を確保

6.最後

1995年1月2日、アドルフ夫妻は「諸国民の中の正義」に認定

→認定後、アドルフ・アルトフの発言

“私たちサーカス団の間には、人種や宗教の違いは無い”

